

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「近隣の社会資源(保育所等)を活用して普通の暮らしを支え、一人々の人生を大切にすることを基本とする」を基に「その人らしく普通の暮らしを支えながら地域社会の一員と生活することを支援します」を理念として実践している	「その人らしく・・・」という理念に基づき、利用者のできる事に着目した実践につなげられるよう、伝達ノート等を活用した取組みが行なわれています。また新人職員研修などを通じて、気づきを促し理念の定着と共有を図っています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流、地域の行事(運動会・お祭り)等に参加している。	祭りなど地域の催しへの参加や、併設の保育園児との交流が日常的に行なわれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の人へ分かりやすく説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催、活動報告、現在取り組んでいる内容についても報告している。又年間で議題を決め率直な意見交換を行っている。	運営協議会では、テーマを設けて開催し広く意見を吸い上げ運営に反映させるような取組みが来ています。特に地域の防災士の資格を有する方を会議のメンバーとし、水害等の災害時への対応を検討し、防災拠点としての意義を検討している点は評価の高い点です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練の時には訓練内容や方法を消防署に相談に行き指導を仰いだ。市の職員とはいつも相談できる関係作りを心がけて対応している。	地域包括支援センター等を通じ地域との連携体制のもと情報交換が行なわれています。現在是对応困難な事例はないとのことですが、今後いろんなリスクが予想される方への対応が課題といえます。	今後困難な課題が予想される利用者について、行政が前向きに介入してもらえるような取組みの検討が期待されます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解を深め周知徹底を行っている。玄関の施錠は行っていないがベル等で出入りの確認を行っている。	マニュアル等が整備され、職員研修会などでの意識付けが積極的に行なわれています。職員個々についても自己評価に基づく管理者の指導が定期的に行なわれるなど、丁寧な対応は注目に値します。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で理解を深め常に利用者の顔(表情)、言葉遣い等に注意を払っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修等に参加し理解を深め、必要としている利用者家族に「成年後見人制度」について情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭等で十分に説明し、家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉サービス相談員(オンブズマン制度)を設けている。	オンブズマンによる相談を活用し、利用者意見を丁寧に吸い上げる取組みが行なわれています。家族からの意見も聴取し、意見に対して返信していく仕組みを工夫することが望まれます。	外部評価での「利用者家族アンケート結果」を活用し、運営推進会議や家族会において返信していくことが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させ、質の向上に心がけている。	管理者が職員の意見を聞き取る機会を設定するなど、組織的な対応が行なわれています。	個別面談等において職員から出された意見を記録し、運営への反映を見える形にしていくことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、個人目標の達成状況を自己評価すると共に、上司との面接により就業状況や次期の目標設定などを包括的に行うことで向上心が持てる職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	作業手順書(マニュアル)に基づいた介護力の向上を常に図ると共に、団体による研修会へ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに参加し、意見交換や施設見学を行いサービス向上にむけ努力している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、より多くの情報収集を行い不安の軽減に努め、また入所後もコミュニケーションを多く持ち、本人との信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時家族からの要望等に耳を傾け、面会時や電話等で状態報告を密にし、家族の不安軽減に努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望を第一に考え、家族の思いを踏まえた上で、最善の支援に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮し「役に立っている」と思って頂ける、場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行い、必要に応じて家族の協力を得たりしながら、共に支えていく関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院に継続的に行けるよう、支援に努めている。	地域の行事などへの参加を通じて馴染みの場所を訪れる機会を持ったり、個別的な支援(美容院の理容・面会の支援)が日常的に行なわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く、共に助け合って生活を送っていけるよう、利用者間の橋渡しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から相談があれば、必要に応じて対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で、相手の気持ちを理解する事に努めている。	利用開始時や状態の変化など、日常的な支援の中で利用者の思いを把握するよう取り組んでいます。介護支援専門員等とも連携し、利用者理解に努めていることが記録類からも分かります。	利用者の思いや希望について、家族とも共有するための取組みの検討が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報交換にて、これまでの生活歴を知りえる限り把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人を尊重し、その人に合った生活リズムを作っている。何が出来るかを常に考え、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、モニタリング、アセスメントを持って作成している。状態変化があった時は、その都度ケアプラン追加や建て直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。	介護支援専門員等とも連携し、ケアマネジメントの過程に沿い、確実に実施していることが一連の記録からも分かります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア実施は実施表に記録し毎月評価を行っている。日々の様子や気付き、バイタル等は個別に記録し、職員間の情報共有を徹底している。勤務開始前には確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的な医療の連携を図っている。それに加え、訪問介護との連携体制も出来ており、昼夜を問わず緊急時や、心身の変化、異常事態発生時にはスムーズな対応が出来、入居者の重度化を防ぐことができています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常時の安全確保の為、近隣地域住民(自治委員・民生委員)との緊急時の体制が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向にそって、同意納得の上併設のクリニックがかかりつけ医になっている。クリニックで対応できない場合は、希望される医療に受診支援が出来ている。	併設の医療機関やかかりつけ医とも連携し、家族の協力のもと受診の支援が行なわれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的(週2回)に訪問看護の訪問があり、日常の健康管理を行ってもらい、相談、助言をもらえる関係作りが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関に本人の情報提供をしている。 職員が見舞い、家族、施設の意向を病院に伝え早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、職員で話し合いを持ち、家族の意向を確認しながら満足していただけのケアを行っている。	嘱託医や協力医療機関、法人内の施設(特養)との連携のもと、本人や家族の希望に沿った支援が行なえる体制が構築されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、応急手当の研修を行っている。 緊急時には、医療、看護との連携体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月単独での避難訓練と、年2回高田清流苑合同の、避難訓練を利用者と共に実施している。 災害時に備え、食糧、飲料水の備蓄や消防団(防災士)との協力体制が出来ている。	3階建ての2階に事業所があるということもあり、毎月避難訓練を実施していることで、利用者への意識付けができています。これは注目すべき点です。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で守秘義務を徹底している。また誇りやプライバシーを損害するような言葉かけや、対応をしないよう心がけ、職員間でも注意し合うようにしている。	マニュアル等が整備され、それに基づく実践と検証が行なわれています。この点でも職員自己評価のが活かされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いを大切にしてい、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で本人の思いを大切にしてい、柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し、近隣の美容室でカット、パーマ等を行い、清潔に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人一人の力を生かしながら、職員と一緒に調理、盛り付け、片づけ等を行っている。	理念に基づき、「利用者のできること」に着目した支援が食事の面でも取組まれていることが、記録や現状の視察から確認できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が行い、水分量は一人一人の状態に合った接種量を心がけている。水分を取ろうとしない方には、嗜好品や、細目に水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助等一人一人の状態や力に応じて口腔ケアを行っている。毎日夜間、義歯消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行い、少しでも快適に過ごせるように支援している。	なるべく自力で排泄を行うことを基本とし、失敗や転倒などへ配慮した支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取量、運動、腹部マッサージ等を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状態を把握し、希望に合わせてゆっくりと入浴できるように心がけている。	利用者のペースに合わせた入浴支援と、入浴を拒否する利用者への細やかな対応が行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を基に、日中の活動に参加を促し、気持ちよく安心して眠れるよう支援している。また日中、その時々状況により居室で休んでもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書の内容を理解し、確実投与の為服薬チェック表を用いている。症状の変化が現れた時には、Drや看護に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態や力量に合わせた役割や、嗜好品を取り入れたおやつ作りを一緒に行ったり、歌を一緒に歌う事で、楽しみや気分転換に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて散歩、買い物や、隣接している保育園や、地域の行事に出かけている。	季節ごとのドライブや気候に応じた散歩など、日常的に外出の機会が設定されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がしているが、買い物や外出時に、好みの物を購入出来るよう手渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやり取りの支援や、電話等の取次で話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるような飾り付けや、玄関、ホール、廊下に観葉植物を置き気持ちよく過ごせるように工夫している。	利用者が落ち着いて過ごせる家具配置や飾り付けなど工夫が見られます。隣接の保育園の園児たちの声や姿が確認できるような環境的配慮があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファや椅子を置き、気の合った利用者同士が過ごせるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を持ち込まれている。	思い出の家具や写真の持ち込みなど、居心地の良い個別のスペースが確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に表札を付け、自分の居室を間違えないようにしている。また、自分専用のクッションにて食事時の座り場所が分かるようにしている。		